

再 評 価 調 査 書

I 事業概要							
事業名	都市公園事業						
地区名	西三河都市計画公園 9・6・1号 <small>あぶらがふちみずべこうえん</small> 油ヶ淵水辺公園						
事業箇所	碧南市、安城市						
事業のあらまし	<p>油ヶ淵水辺公園は、愛知県で唯一の天然湖沼であり広々とした水面を持つ「油ヶ淵」の特色を活かした大規模公園（広域公園）である。</p> <p>本公園は「油ヶ淵の自然と歴史 未来へつなぐ水辺風景の創造」をテーマに掲げ、油ヶ淵を含めた周辺地域を以下のコンセプトのもと5エリアに分け、特色ある公園整備を計画している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ Aエリア：「矢作川水園」。三河地区の象徴である矢作川を中心とする地域を、流れ、森、広場、水田など郷土性の表現を図る。 ・ Bエリア：「自然ふれあい生態園」。油ヶ淵の自然環境を再生し、身近な生き物との触れ合いの場の形成を図る。 ・ Cエリア：周辺の広々とした農地を活かした散策空間や釣りの拠点の場の形成を図る。 ・ Dエリア：「交流広場」。県民の多様なニーズに対応し、憩いと交流の場の形成を図る。 ・ Eエリア：「水生花園」。花や植栽により、季節感あふれる風景の創出を図る。 </div> <p>本公園は、2005年10月に都市計画決定した。この全体計画区域は広大（139.9ha）であり、整備には長期間を要することから、Bエリア「自然ふれあい生態園」とEエリア「水生花園」、これら区域を結び水面や周辺風景を楽しみながら湖岸を一周できる周遊園路の合計35.7ha（内水面3.8ha）を早期に供用を目指す「第1期整備区域」として事業を進めるものである。</p>						
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <p>◇自然とのふれあいの場、憩いの場及び交流の場の創出</p> <p>◇環境学習拠点の創出</p> <p>◇県民と行政のパートナーシップ活動（県民協働）の場の創出</p>						
計画変更の推移		事前評価時 (2005年)	再評価時(1回目) (2011年)	再評価時(2回目) (2016年)	再評価時(3回目) (2021年)	変動要因の 分析	
	事業期間	2006～2035	2006～2035	2006～2026	2006～2026	—	
	事業費（億円）	333.4	333.9	137.0	135.2		
	経費内訳	工事費	182.9	183.2	79.1		72.6
		用補費	150.5	150.8	57.9		62.6
		その他	—	—	—		—
事業内容	広域公園の整備 A=139.8ha (内水面 63.7ha) [主な整備内容] ◇Aエリア 矢作川水園 ◇Bエリア 自然ふれあい生態園 ◇Cエリア 園路広場 ◇Dエリア 交流広場 ◇Eエリア 水生花園	広域公園の整備 A=139.9ha (内水面 63.7ha) [主な整備内容] ◇Aエリア 矢作川水園 ◇Bエリア 自然ふれあい生態園 ◇Cエリア 園路広場 ◇Dエリア 交流広場 ◇Eエリア 水生花園	広域公園の整備 A=35.5ha (内水面 3.8ha) [主な整備内容] ◇Bエリア 自然ふれあい生態園 ◇Eエリア 水生花園 ◇周遊園路	広域公園の整備 A=35.7ha (内水面 3.8ha) [主な整備内容] ◇Bエリア 自然ふれあい生態園 ◇Eエリア 水生花園 ◇周遊園路			

II 評価

①事業の必要性の変化

1) 必要性の変化

【事前評価時（2005年）の状況】

- ・県営都市公園は11箇所あるものの、安城市及び碧南市を含む西三河地域には設置されていない状況であり、地元からは新規整備を望まれていた。
- ・県下唯一の天然湖沼であり、広々とした水面という特色を持つ油ヶ淵周辺を都市公園として整備することにより、「地域の憩いの場」、「自然とのふれあいの場」を創出するとともに、「都市環境の改善」や「都市景観の向上」に資することが求められていた。
- ・油ヶ淵では、関係機関による水質改善対策「清流ルネッサンスⅡ」が進められており、公園整備によって、さらに住民の意識が高まり、地域の取り組みが促進されることが期待されていた。

【再評価時（1回目）（2011年）の状況】

- ・油ヶ淵の水質改善が進んでいることや、県民の地球温暖化防止や生物多様性保全に対する意識の高まりから、環境学習の拠点を始めとした公園整備に対する期待が高まっていた。
- ・住民が自発的に公園の管理運営に携わっていく「地域に愛され育まれる公園」を目指し、2007年度から住民参加によるワークショップを19回も開催するなど、住民参加による公園づくりに対する期待が高まっていた。
- ・協働活動団体「田んぼビオトープの会」は、2009年度より稲作体験、自然観察会、水質調査の活動を通して「体制づくり」に取り組んでいる。この活動には、一般参加が多数あり、活動協働活動に対する関心や期待が高揚し、活動の場である本公園の早期開園への期待が高まっていた。

【再評価時（2回目）（2016年）の状況】

- ・Bエリア、Eエリアの現地工事が進み、公園の姿が見えてきたことから、本公園の一層の整備促進と早期開園に対する地元市及び住民の要望及び期待が更に高まっている。
- ・油ヶ淵の水質改善の取り組みは続いており、住民の環境保全に対する意識も引き続き高く、環境学習の拠点を始めとした本公園整備に対する期待は引き続き高い。
- ・「油ヶ淵浄化デー」では、周辺4市の住民参加による清掃活動を行っており、油ヶ淵の水質改善に対する地域の取り組みが継続されている。
- ・住民参加によるワークショップや協働活動団体の体制づくりへの取り組みが実を結び、2016年度には、「緑のDNAバンクドングリの会」と「田んぼビオトープの会」を本公園で協働活動を行う市民団体として認定した。そこで、活動の場となる本園の早期の開園が強く求められている。

【再評価時（3回目）（2021年）の状況】

- ・2018年4月にBエリア、Eエリアの一部が新規に供用開始され、その後、2020年9月にBエリアの一部、2021年3月及び7月にEエリアの一部がそれぞれ拡張されており、本公園の一層の整備促進とさらなる供用区域の拡大に対する地元市及び住民の要望及び期待が更に高まっている。
- ・Bエリアの遊具整備案が人気投票及び県と関係機関による審査により決定され、これを基に実施設計が完了し、遊具整備が進められている。
- ・田んぼビオトープにおいて、「稲刈り体験」や「生き物観察会」等のイベントが開催された他、油ヶ淵水辺公園利用促進協議会による「新春フェスタ」等、様々なイベントが開催されている。

【変動要因の分析】

- ・施設整備が進み、面的な利用が可能な箇所ができたことにより、新規の供用開始が可能となり、その後も供用区域周辺で設整備を進め、順次供用区域の拡大を達成している。
- ・当公園の集客力の向上を図るため、Bエリアにおいて遊具整備を行うこととし、そのPRを兼ねて、安城市と碧南市の小学4年生、幼稚園の教諭、子育て施設の利用者等を対象に人気投票を実施した。
- ・遊具整備はPR効果が希薄になる前に完成することを目指し、実施設計も施設整備も着手可能な箇所から順次行い、スピードアップを図っている。
- ・油ヶ淵の水環境保全に対する住民意識の高まりとともに油ヶ淵の水質は改善されており、2011年度、清流ルネッサンスⅡの目標値をCOD8mg/lからCOD6mg/lへ改訂された。
- ・油ヶ淵水質浄化促進協議会（愛知県、碧南市、安城市、西尾市、高浜市）は1998年度から

	<p>毎年度、油ヶ淵への関心を深め、水質浄化に向けた気運を盛り上げるためのイベントとして「アクション油ヶ淵」を開催しており、2018年度からは油ヶ淵水辺公園を会場としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・碧南市、安城市、西尾市及び高浜市の4市では1992年から毎年7月の第4日曜日を「油ヶ淵浄化デー」と定め、愛知県と連携し清掃などを通じて水質浄化に向けた活動が行われており、2021年度は約1,360人の参加があった。 ・県、安城市、碧南市、知立市、刈谷市、高浜市、西尾市及び指定管理者よりなる油ヶ淵水辺公園利用促進協議会が2019年度に発足し、新春フェスタなどの協議会主催のイベントを実施している。 ・2020年度県政世論調査において、質問「自然への関心度」に対して、「関心がある」が72.7%、「生物多様性の認知状況」について「意味を知っている」が51.2%であった。また、「参加したい生物多様性保全活動」は「自然観察会や探鳥会、自然体験ツアー（エコツアー）などのイベント」が最も高く21.7%であった。 ・住民参加によるワークショップを2007年度から2013年度の間に22回開催し、環境学習や県民協働の拠点となる「水辺の学習館」を始めとした公園施設の計画、設計内容等について意見交換を行った。 ・ワークショップを契機に始まった「緑のDNAバンクドングリの会」と「たんぼビオトープの会」の協働活動には、2020年度までに延べ約3,360名の一般参加があった。 																																																																																																																																																																														
判定	<p>B</p> <p>A： 前回評価時に比べ必要性が増大している。 B： 前回評価時に比べ必要性にほとんど変化がない。 C： 前回評価時に比べ必要性が著しく低下している。</p> <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事進捗に伴い、更なる整備促進と供用区域拡大へ期待が更に高まっている。 ・油ヶ淵の水環境保全に対する住民の意識は引き続き高く、環境学習の拠点を始めとした公園整備に対する住民の期待は引き続き高い。 ・ワークショップ等が実を結び、2つの協働活動団体が活動を継続しており、活動の場の提供が求められている。 																																																																																																																																																																														
②事業の進捗状況及び見込み	<p>1) 進捗状況</p> <p>【事業計画及び実績】</p> <table border="1" data-bbox="335 1187 1452 1400"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>6</th> <th>~</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>13</th> <th>14</th> <th>15</th> <th>16</th> <th>17</th> <th>18</th> <th>19</th> <th>20</th> <th>21</th> <th>22</th> <th>23</th> <th>24</th> <th>25</th> <th>26</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">工種区分</td> <td>調査・設計</td> <td>←</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>用地補償</td> <td>←</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>工事</td> <td></td> <td></td> <td>←</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">事業費(億円)</td> <td>計画</td> <td colspan="3">35.5</td> <td colspan="5">48.8</td> <td colspan="5">34.5</td> <td colspan="5">16.4</td> <td>135.2</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td colspan="3"></td> <td colspan="5">24.5</td> <td colspan="5">27.4</td> <td colspan="5"></td> <td>87.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>【進捗率】</p> <table border="1" data-bbox="335 1444 1364 1758"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">これまでの計画に対する達成状況</th> <th colspan="2">全体進捗状況</th> <th rowspan="2">参考 (面積ベース 用補進捗率)</th> </tr> <tr> <th>計画【①】</th> <th>実績【②】</th> <th>達成率【②÷①】</th> <th>計画【③】</th> <th>達成率【②÷③】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>面積(ha)</td> <td>12.8</td> <td>8.5</td> <td>67%</td> <td>35.7</td> <td>24%</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>事業費(億円)</td> <td>94.5</td> <td>87.4</td> <td>93%</td> <td>135.2</td> <td>65%</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td> 工事費</td> <td>39.8</td> <td>41.8</td> <td>105%</td> <td>72.6</td> <td>58%</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td> 用補費</td> <td>54.7</td> <td>45.7</td> <td>83%</td> <td>62.6</td> <td>73%</td> <td>88%</td> </tr> <tr> <td> その他</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>※) 用地取得の一部を先行予算で実施しており、面積ベースの用地取得率は88%。</p> <p>【施工済みの内容】</p> <p>○Bエリア（自然ふれあい生態園）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用地12.5haのうち12.1ha買収済み。 ・造成工事、園路・広場工事、植栽工事を施工中。 <p>○Eエリア（水生花園）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用地5.3haのうち3.5ha買収済み。 ・造成工事、園路・広場工事、植栽工事を施工中。 			6	~	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	合計	工種区分	調査・設計	←																				用地補償	←																				工事			←																		事業費(億円)	計画	35.5			48.8					34.5					16.4					135.2	実績				24.5					27.4										87.4		これまでの計画に対する達成状況			全体進捗状況		参考 (面積ベース 用補進捗率)	計画【①】	実績【②】	達成率【②÷①】	計画【③】	達成率【②÷③】	面積(ha)	12.8	8.5	67%	35.7	24%	—	事業費(億円)	94.5	87.4	93%	135.2	65%	—	工事費	39.8	41.8	105%	72.6	58%	—	用補費	54.7	45.7	83%	62.6	73%	88%	その他	—	—	—	—	—	—
		6	~	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	合計																																																																																																																																																										
工種区分	調査・設計	←																																																																																																																																																																													
	用地補償	←																																																																																																																																																																													
	工事			←																																																																																																																																																																											
事業費(億円)	計画	35.5			48.8					34.5					16.4					135.2																																																																																																																																																											
	実績				24.5					27.4										87.4																																																																																																																																																											
	これまでの計画に対する達成状況			全体進捗状況		参考 (面積ベース 用補進捗率)																																																																																																																																																																									
	計画【①】	実績【②】	達成率【②÷①】	計画【③】	達成率【②÷③】																																																																																																																																																																										
面積(ha)	12.8	8.5	67%	35.7	24%	—																																																																																																																																																																									
事業費(億円)	94.5	87.4	93%	135.2	65%	—																																																																																																																																																																									
工事費	39.8	41.8	105%	72.6	58%	—																																																																																																																																																																									
用補費	54.7	45.7	83%	62.6	73%	88%																																																																																																																																																																									
その他	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																									

2) 未着手又は長期化の理由	<p>①大規模補償物件の交渉の長期化に伴う用地買収の遅れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2006年度より交渉を重ね、2017年度には代替地にも納得いただき契約直前まで進んだが、地権者の事情により契約に至っていない。2023年度には交渉を再開させる予定である。 <p>②用地買収の遅れに伴う工事の遅れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当用地買収が遅れており、これに伴い工事も遅れている。
3) 今後の事業進捗の見込み	<p>【阻害要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2)①については、当初は事業反対の姿勢であったものの、交渉を継続し、2014年度には、移転（売却）する了解を得た。2015年度には、代替地の条件整理を行い、2017年には、契約直前まで進んだが、地権者の事情により契約に至っていない。 ・ 2)②については、一定の区域毎に重点的に用地買収を進めていっており、現在は多目的広場予定地を重点買収エリアとしている。 <p>【今後の見込み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模補償物件移転を含めた用地買収は、今後概ね3年間で完了する。用地買収後、工事を一層加速し、2026年度を目標に第1期整備区域全域の整備を完了する。なお、段階的に供用区域を拡大できるよう、工事を進めていく。
判定	<p>A：これまで事業は順調であり、引き続き計画通り確実な完成が見込まれる。</p> <p>B：次のいずれか（該当する項目に「○印」を付ける）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 ・ これまで事業が長期化していたが、事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 ・ これまでの事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 <p>C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。</p>
	<p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 用地買収に時間を要しているが、今後概ね3年間で完了を見込んでおり、その後は、工事進捗を一層加速することで、ほぼ計画どおりの完了が見込まれるため。

③ 事業の効果の変化	<p>1) 貨幣価値化可能な効果(費用対効果分析結果)の変化</p>	<p>【貨幣価値化可能な効果(費用対効果)分析の算定基礎となった要因変化の有無】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価手法(大規模公園費用対効果分析手法マニュアル)の改訂 ・競合公園の減少 ・社会経済環境の変化(ゾーン内人口の増減、世帯数の増減等)の反映 ・年度別事業費の更新 ・維持管理費単価の更新 <p>【貨幣価値化可能な効果(費用対効果)分析結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業の費用便益比は2.1(≧1.0)であり、事業効果が期待できる。 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>事前評価時 (基準年:2006)</th> <th>再評価時 (基準年:2011)</th> <th>再評価時(2回目) (基準年:2016)</th> <th>再評価時(3回目) (基準年:2021)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">費用 (億円)</td> <td>事業費</td> <td>170.5</td> <td>205.6</td> <td>132.3</td> <td>158.9</td> <td rowspan="3">・年度別事業費の黒心 ・維持管理費単価の更新</td> </tr> <tr> <td>維持管理費</td> <td>28.9</td> <td>20.9</td> <td>12.7</td> <td>52.8</td> </tr> <tr> <td>合計(C)</td> <td>199.4</td> <td>226.5</td> <td>145.0</td> <td>211.8</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">効果 (億円)</td> <td>利用便益</td> <td>148.2</td> <td>977.1</td> <td>1,181.0</td> <td>192.3</td> <td rowspan="5">・評価手法(マニュアル)の改訂 ・競合公園の減少 ・社会経済環境の変化の反映</td> </tr> <tr> <td>環境便益</td> <td>91.3</td> <td>50.3</td> <td>96.3</td> <td>111.7</td> </tr> <tr> <td>防災便益</td> <td>86.9</td> <td>84.4</td> <td>116.2</td> <td>151.3</td> </tr> <tr> <td>合計(B)</td> <td>326.4</td> <td>1,111.8</td> <td>1,393.5</td> <td>455.3</td> </tr> <tr> <td>(参考)年間需要算定要員(万人)</td> <td>77</td> <td>173</td> <td>148</td> <td>161</td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用対効果分析(B/C)</td> <td>1.6</td> <td>4.9</td> <td>9.6</td> <td>2.1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※金額は、社会的割引率(4%)を用いて現在の価値に換算したものの。</p> <p>【貨幣価値化可能な効果(費用対効果)分析手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「改訂第4版大規模公園費用対効果分析手法マニュアル 平成29年4月 国土交通省都市局 公園緑地・景観課(平成30年8月 一部改訂) ・都市公園事業は、都市環境の改善や防災性の向上を図ると同時に、自然とのふれあいやスポーツ・レクリエーションの場を提供することを目的とした事業であり、直接的に公園を利用することによって生じる価値と、環境機能や防災機能といった間接的に公園を利用することによって生じる価値を便益とし、それに要する費用と比較して求めている。事業採択にあたっては、その値が1以上を要件としている。 <p>【変動要因の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアル改訂に伴い、分析対象期間が50年間から59年間となったため、便益が増加した。 ・公園施設計画の一部変更により、競合公園について見直しを行い、競合公園数が減少したため、便益が増加した。 ・誘致圏域人口および世帯数の増加に伴い、便益が増加した。 	区分		事前評価時 (基準年:2006)	再評価時 (基準年:2011)	再評価時(2回目) (基準年:2016)	再評価時(3回目) (基準年:2021)	備考	費用 (億円)	事業費	170.5	205.6	132.3	158.9	・年度別事業費の黒心 ・維持管理費単価の更新	維持管理費	28.9	20.9	12.7	52.8	合計(C)	199.4	226.5	145.0	211.8	効果 (億円)	利用便益	148.2	977.1	1,181.0	192.3	・評価手法(マニュアル)の改訂 ・競合公園の減少 ・社会経済環境の変化の反映	環境便益	91.3	50.3	96.3	111.7	防災便益	86.9	84.4	116.2	151.3	合計(B)	326.4	1,111.8	1,393.5	455.3	(参考)年間需要算定要員(万人)	77	173	148	161	費用対効果分析(B/C)		1.6	4.9	9.6	2.1	
	区分		事前評価時 (基準年:2006)	再評価時 (基準年:2011)	再評価時(2回目) (基準年:2016)	再評価時(3回目) (基準年:2021)	備考																																																					
	費用 (億円)	事業費	170.5	205.6	132.3	158.9	・年度別事業費の黒心 ・維持管理費単価の更新																																																					
維持管理費		28.9	20.9	12.7	52.8																																																							
合計(C)		199.4	226.5	145.0	211.8																																																							
効果 (億円)	利用便益	148.2	977.1	1,181.0	192.3	・評価手法(マニュアル)の改訂 ・競合公園の減少 ・社会経済環境の変化の反映																																																						
	環境便益	91.3	50.3	96.3	111.7																																																							
	防災便益	86.9	84.4	116.2	151.3																																																							
	合計(B)	326.4	1,111.8	1,393.5	455.3																																																							
	(参考)年間需要算定要員(万人)	77	173	148	161																																																							
費用対効果分析(B/C)		1.6	4.9	9.6	2.1																																																							
2) 貨幣価値化困難な効果の変化	<p>【再評価時(1回目)(2011年度)の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・油ヶ淵の水環境保全に対する住民の意識を高める効果が期待できる。 <p>【再評価時(2回目)(2016年度)の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな変化はなし。 <p>【再評価時(3回目)(2021年度)の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな変化はなし。 																																																											
判定	<p style="text-align: center;">A</p> <p>A: 事業着手時とほぼ同様の事業効果が発現される見通しがある。 B: 事業着手時と比べ低下が見られるが、十分な事業効果が確保される見通しがある。 C: 事業着手時と比べ著しく低下し、現時点では事業効果が確保される見通しが立たない。</p> <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・費用対効果分析結果は1を上回っている ・公園の部分供用に伴い利用者実績による補正值を用いて費用対効果を算出したため、前回評価時に比べ費用対効果の値は小さくなっているが、前回評価時と同様の事業効果は変わらず発現される見通しがあるため。 																																																											

Ⅲ 対応方針（案）

継続

中止：上記①～③の評価で一つでもC判定があるもの。
継続：上記以外のもの。

Ⅳ 事後評価実施の有無と主な評価内容

■対象（事業完了後5年目） 対象外

【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】

【主な評価内容】

- ◇年間公園利用者数
- ◇公園利用満足度（アンケート調査）
- ◇環境学習の実施状況
- ◇県民協働のイベントやプログラム等の件数

Ⅴ 事業評価監視委員会の意見

西三河都市計画公園 9・6・1号 油ヶ淵水辺公園の対応方針（案）〔事業継続〕を了承する。

Ⅵ 対応方針

事業継続